

第4回 長浜市産業文化交流拠点整備検討会議 会議録

【日 時】平成28年1月6日（水） 午後7時00分から午後9時00分まで

【場 所】長浜市役所 1階 多目的ルーム3

【出席者】◇参加者10名、市10名、コンサルタント5名 （敬称略）

滋賀県立大学	松岡 拓公雄 （座長）
長浜市図書館協議会	森川 裕子
長浜地区総合施設建設促進協議会	漣 泰寿
淡海文化振興財団	北村 欣見子
長浜ビジネスサポート協議会	桐山 輝雄 （代理出席）
長浜観光協会	上羽 輝明
長浜商工会議所	伊吹 正弘
長浜市社会福祉協議会	伊藤 雅明
（公募市民）	川村 美津子
（公募市民）	大橋 優子

	大塚副市長
財産活用室	嶋田室長 （事務局）
財産活用室	中島副参事 （事務局）
財産活用室	田中副参事 （事務局）
財産活用室	片山主査 （事務局）
市民協働推進課	山田理事
生涯学習課	酒井課長
社会福祉課	堂村副参事
商工振興課	米田課長
教育指導課図書館運営室	川瀬室長

(株)日本設計関西支社	近宮、垣口、東野、小西
(株)地域経済研究所	井上

【欠席者】1名

立命館大学	岡井 有佳
-------	-------

【傍聴者】1名

【内 容】

1. 開会

2. あいさつ

（副市長挨拶）

庁舎が完成して早1年になる。その間、庁舎跡地については、さまざまな機能を集積して、市民の皆さんが集う場、知の集積の場、活動の拠点にしたいということで議論を重ねてきた。皆様には利用する側の立場としてご意見を頂戴しましたことを心からお礼申しあげる。10

月以降ご検討をいただき今日で4回目。いよいよとりまとめの段階に入る。来年度には基本設計を行い、30年度の完成に向けて進めていきたい。本日も忌憚のないご意見を頂戴し、実のある検討会議にしたいと思うので、よろしくお願いします。

(事務局説明)

・欠席者…立命館大学 岡井有佳 氏

長浜ビジネスサポート協議会 押谷小助 氏 (代理：桐山輝雄 氏)

3. 議事

(1) 前回会議のふりかえりとその後の動き

(2) 長浜市産業文化交流拠点整備事業計画 (パブリックコメント素案) について

(事務局説明)

【資料1】第3回長浜市産業文化交流拠点整備検討会議での意見まとめ

【資料2】長浜市産業文化交流拠点整備事業計画 (パブリックコメント素案)

(3) 意見交換

座 長： 事業計画 (パブリックコメント素案) の第1～3節まででご意見をお願いします。

共結スペースの名前を公民館・市民活躍スペースに変えられたが、公民館・市民活躍スペースというのがピンとこない。市民活動と市民活躍という言葉が混在しているが、読んだ方がどのように理解するか。何度も出てくる市民活動という言葉でもいいのでは。活躍のほうがいいのか。どのように議論されたか教えてほしい。言葉の定義が気になる。

委 員： 正直言って不安。共結スペースはあくまでも共有スペースであって、公民館・市民活躍スペースとはまた違うのではないかと。パブリックコメント案なので、反対してどうしようとは思わないが、施設全体のなかで共有すべきものなので、意味が全く違うのではないかと。これは変えていただかないと承服しにくい。

委 員： 共結という言葉は、市民の力が結集するすばらしい造語だと思っていた。社会福祉協議会には災害ボランティアセンターの設置というものがある。非常時には社協が、市の防災計画に則ってボランティアセンターを立ち上げるものだが、その観点から、公民館・市民活躍スペースが平時においての賑わい創出として理解し共感するが、非常時には共結という造語の意味合いによって、外の交流広場も含めて災害時の対応がフレキシブルにできる機能として横断的な明記をお願いしたい。福知山市の施設の視察時に、共有のもとに結集して、協力し合う機能を併せ持っているという話があった。非常に重要なことだと思うので、非常時には共結スペースの自由度を高めてもらえるよう、第4節 施設計画でも市民の安全安心の観点から文言の整理をお願いしたい。

委 員： 公民館を使う者としては、共結というのは大きすぎる。共結スペースよりも公民館・市民活躍スペースのほうが使いやすいし、入りやすい。

委 員： 3-3 頁のイメージ図は、建物が6つに分かれていて、公民館・市民活躍スペースが公民館の外まで出ているのは何か意味があるのか。

事務局： 建物は一番外側の黒枠だという捉え方をしていただきたい。

委 員： どう捉えたらよいかわからない。疑問に感じる。今までの共結のイメージと別のイメージになってしまうように思う。

委 員： 12月に地域づくり協議会の役員に複合施設の内容を伝えたが、公民館活動をする場がな

いと不安を感じられた。市民活動ができる場を実現してほしいということを踏まえ、「公民館」という名称をもってすることで従来の活動が継続していけると理解できる表現にしてもらえたと思う。今後はイメージを共有することが必要だと思う。3-3 頁の図の真ん中の丸の部分、ハードを含めてどうしていくか具体的な像を見出したらいいいと思う。

委員： 大いに公民館を活用してほしいと思うが、公民館と併用した共有スペースの場合、利用時に偏る部分があってはいけない。うまく調整しないと、公民館のスペースだという考えから入ってしまうと複合施設として運営するなかで問題が出てくる。うまく活用するためには共結スペースのほうがいいのではないかな。

委員： 長浜地区には 9,000 人の市民が住んでいて、その方々の公民館を通じた市民活動の場になる。市民が活動することに視点を置くことは大切だと思う。活躍する場をどう提供するかがこの建物の大きな意味合い。まずそこに視点を置くべき。公民館という名前がつくと公民館のために場所を取っているイメージがあるが、本来は、いかに市民活動を活発にして地域コミュニティを図っていくかが大事。図書館は中央図書館という位置づけがあり、商工会議所にも名称位置づけがある。公民館は今まで名称の位置づけがなかった。

委員： 各機能が共結スペースを活用できるようにしていくことがいいのではないかな。

委員： 公民館が独占しようとは思っていないが、今の活動が母体となってくるので、母体がきちんと活動できる状況はつくっておかないといけない。

委員： 押し競まんじゅうになってくる。建物の平成の大合併というイメージが湧く。中央図書館や産業支援機能はオール長浜の事業だと思うが、長浜公民館は地域の方が活動できる場、小さなものと大きなもののなかをどういうふうに棲み分けするか。中央図書館にきた人がこのサークルと一緒に活動する横の流れがあると、オール長浜の場所にもなる。合併は我慢しないといけないとかコンパクトにならざるを得ない部分もあるが、知恵やハイテクノロジーを駆使しながらよいものを造っていくなかで、公民館の図に変に気遣いがあるというか違和感がある。えんぱ一くへ視察に行かれた時の感想も一度お聞きしたい。

委員： 公民館と言える場所が事務所しかないことを心配されている。社協や商工会議所が部屋を取ってしまったら公民館が使えないのではという反対の考えを持たれている。公民館・市民活躍スペースと書かれていると安心する。

座長： 限られた面積のなかで、複合施設として一緒になった場合に、なるべくムラのないようにするのが基本。事務所だけでは不安なので、公民館・市民活躍スペースとして膨らませて公民館が中心みたいな絵になっていると見えるが、公民館として必要な部分と共有できる部分との線引きがしっかりできていれば問題ないはず。予算と面積が出ているが、取り合いになるような面積ではなく、余裕のある配分が必要になってくる。どこまで幅を持たせるか、もう一度議論したほうがいいのかもかもしれない。

事務局： 共結スペースを公民館・市民活躍スペースと変更した大きな理由としては、施設の面積を集約するなかで、各機能が要望された会議室等をまとめ 6,200 m² となった。公民館としてイメージする部分を共結スペースと呼んでいたが、そのことで長浜公民館の移設ということが見えにくくなったと感じている。それを明確にした。会議室や多目的ホール、調理室、工作室等は公民館という呼び方がわかりやすい。運用は計画のなかでしっかり決めていく必要がある。5-10 頁や 5-11 頁で書き込んでいる。5-11 頁の図が施設運営で重要な部分。各機能で運営協議会を作り、運営していきたいと考えている。複合施設としてのメリットを十分発揮していける施設運営に取り組みたい。名称によって特別に扱うものではないことはご

理解いただきたい。

座 長： 運用のシミュレーション、どのように空きスペースが発生するか、使用頻度等のシミュレーションがあればわかりやすい。

事務局： 3-8 頁、3-9 頁の面積は公民館、図書館等の利用率をヒアリングして検証し、大きさや数を算出している。想定稼働率は上限を 80%に設定している。会議室はそれぞれの機能が利用するのに余裕のある形で計上している。

座 長： 本来は共結スペースという言葉がつなぐものとして一番シンプルな名前。パブリックコメントをして名称が変わることもあるが、スペースについて共通の意識を持っているので安心した。

第 4 節以降で、ご質問・意見はあるか。

4-9 頁のメリット・デメリットの表で、「費用負担や権利関係の整理が必要」はデメリットになるのか。

事務局： 視点が変わればメリットにもなり得る。

座 長： メンテナンスやランニングコストにも関係してくるが、設備も完全分棟なのか。

事務局： そういうことも想定しているが、整備のなかでは 1 つの設備を振り分けることもある。限定しているものではない。

委 員： 4-14 頁、概算事業費で、3,730 万円の運営費が発生する。参考までに現長浜図書館の年間運営費はどの程度か。貸館する時に、行政からお金を出す発想だけではだめなので、ある程度は利用者が受益者負担しながら、収入確保できる部分を確保して、切り詰められる運営費は切り詰めていく判断をするようにしておかないといけない。

事務局： 現長浜図書館の年間運営費については、資料も確認したが、この場で正確にお答えできるものではない。

座 長： 6-1 頁、事業スケジュールで、基本設計先行型 DB が望ましいとされている。基本設計は別に出すということなのでまだいいかと思うが、DB はゼネコンと設計者が一緒に入札するので従来方式とは違う。ポンプ場や下水場など、デザインが重要でないような施設によく使われている手法。管理しやすいのだが、本来、設計は施主側に付くが、施工と一緒にすると施工者側に付く。そこで心配なのは設計施工一緒なので、コスト面でこれでしかできないと言われても他に出せない。例えば 30 億円が 33 億円になったりする危険性も感じている。

委 員： 3-2 頁、地域福支援機能について、基本構想時は具体的ではなかったが、28 年 4 月から介護保険法の改正により、介護予防分野の事業が一般施策に変わる。3-9 頁で職員 20 人という計画でいたが、市から委託を受け、生活支援コーディネーターが 4~5 人増える。今後のしょうがい相談支援事業等を想定すると、さらに職員が増える可能性もある。3-4 頁の公用車も 6 台とあるが 10 台あるので、地域の高齢者の生活支援を行うのに、増員要素も加味してほしい。

委 員： 検討会議ではなかなか意見が出にくい、商工会議所は市との共同事業なので、商工会議所のしたいことは他の機能よりは理解いただいていると思う。ここまで案をまとめられた事務局の努力に対しては敬意を表すが、商工会議所として 1-8 頁、⑧産業振興ビジョンに『本市が培ってきた経営者マインドを継承し、強固な経済基盤を創造するため、商工会議所・商工会を中心に、大学、関連団体、金融機関などとの連携を通じて、長浜ビジネスサポート協議会を設立し、専門家の派遣によるきめ細かな支援や企業家同士のサロン開催、企業情報の発信等に取り組み、将来的には協議会の法人化や、活動拠点施設として、「(仮称) ながはま

産業創造センター」の整備を目指すこととしています。』とある。⑥ひと・まち・しごと創生総合戦略では、『市においては、様々な角度から産業振興による新たな雇用を創出し、市外からの新たな人の流れを生み出すことで、「しごと」と「ひと」の好循環を作り出し、持続可能な「まち」の活性化を図っていくものとし、総合戦略では、「産業振興」を一つの大きな原動力として、子どもや若者が明るい未来を描く、持続可能な希望に満ちあふれた「活力あるまち」を創造することとしています。』とある。大塚会頭もこのようなことを盛んに申している。面積という点では、産業創造センターと商工会議所合わせて1,100㎡程度で全体の2割もないが、複合施設のなかで機能を十二分に発揮していきたい。産業文化交流というつながりがあるように、産業は貴重な原動力だと思っている。会頭をはじめ一生懸命やりたいと思っている。面積も大事かと思うが、出来上がった形で判断されるので、しっかり抑えておかないと市民から不平不満が出てくる。よろしくお願いします。

座 長： パブリックコメント案については、これをベースに、意見を参考に修正するところがあれば修正し、予定どおり発表していただきたいと思う。

事務局： パブリックコメントは庁内での意見照会、議会への報告を踏まえて、1月22日から予定している。関連なご意見をいただいているところだが、計画への意見や施設への思いをご発言いただきたい。

北 村： 交流推進計画に期待を持っている。淡水ネットワークセンターは大津にあるので、湖北地域から相談に来られることはめずらしく、書類や電話のやりとりなどでご不自由いただいている。市民活動やNPOだけでなく社協やコミュニティビジネス、産業支援に関わること等、複合的な問題の相談があるが、長浜にこういう拠点ができることは、それが1つのところに集まってくるので、新しい知、創造が生まれることを期待している。いろんなことが一緒になるのは大変だが、使うメリットもあるので、期待できている。

委 員： 私はホテルをやっていて、宴会場や客室、会議室等のいろんな設備を持っている。それをどう運営し稼働させていくのが大事になってくる。新しい建物ができ、よいものができると思うが、せっかくよいものができるでもきちんと稼働し、多くの人に利用してもらって、賑やかで活発な施設になることが重要かと思う。建物を造られた後の運営が大事。DBでは建築コンサルタントをいれることでコストダウンさせるやり方もあったので、そういうことも考えられるかと思う。

委 員： 委員の発言のとおりです。

委 員： 建物のイメージ絵を見ると、二世帯住宅で、長浜はサザエさん一家にはなれないのだと思う。建物をコーディネートする力のある人材がないとこの施設の機能をうまく持たせることは難しいだろうし、今までと違って予想できないなかで、動きやすく流動的に使えるものにさえしてもらえればいいのかと思う。

委 員： できてよかったではなく、いかに利用して、使う人が命を吹きこみ、生きている施設にしてほしい。

委 員： シンボリックな建物になればいいとおっしゃってきたが、市民からすれば、行きやすい、入りやすい、利用しやすいが一番。結果的に、みんなが行くようになり、シンボリックな建物になるのではないかと思うので、市民が行きやすく、使いやすいものにしてほしい。敷地Bにバス乗降所があってもいいと思っていたが、敷地Aに配置するなら観光客がここに降ろされた意味があるような場所にしていきたい。

座 長： 公共施設としてこれだけ集合した複合施設はそうそうないと思う。成功するかどうか、長

浜が先進的なモデルを示せるかどうかが課題だと思う。協力して市民が一つになっているという意味では建物が離れているのは気になるが、コスト、管理、運営の面もあり、1つになれば格好よくなるということでもないので、造り方でうまくやってほしい。シンボリックなもので攻めるやり方は古くなってきていて、市民の目線レベルでものを造っていく。それをまとめられる能力が設計者には必要になってくる。そういう流れの先駆けになってほしいという希望がある。

事務局： 検討会議はパブリックコメント後、最終形がまとまる3月にもう一度開催したい。28年度には基本設計のステージに入る。

えんぱーくの視察についてだが、整備準備室から関わってこられた現組織の部長であり、図書館長とセンター長を兼ねている方に話を聞いてきた。そのなかで、いろんな機能が入るので、市のなかでも縦割りというものを意識したとのことだった。ワークショップをかなり開き、施設づくりを進められたが、市民も実は縦割りで、参加しているそれぞれの立場でお話しされるので、縦割りを打開することが施設づくりにおいて重要で、それに取り組んできたということだった。

もう1つは機能融合。各施設の機能が融合することで使いやすい施設ができるということで、現在も取り組んでいるということだった。縦割りのほうが運営側としては楽なので、施設ができ数年経っているが、そこをがんばって取り組んでおられた。

施設を見ると、各機能の仕切りはなく、部屋はガラス張りになっていた。ハードからそういう形で造っていた。

全体をまとめる機能があり、そこで図書館や子育て支援、産業支援が機能している。運営は運営協議会をつくり取り組まれている。さらに、市民が参加する形を作ろうと、市民営を目指されている。その取組のなかで、縦割りをなくすため、えんぱーくらぶを作り、関係者はそこに所属し、垣根を除いてみんな一緒だということで事業を進めておられた。ぜひ、今回の施設でも取り入れて実施していき、利用しやすい施設を実践していきたい。

座長： 図書館は図書館、公民館は公民館という枠はだんだん外されつつあって、図書館のなかに公民館の機能が入っているものも外国では例にある。縦割りから滲み出して、お互いが融合していく考えは芽生え始めていると思うし、最後は市民に託されることになるので、これからもぜひ注目してよいものをつくるように努力していただきたい。

4. その他

5. 閉会

事務局： 1月21日に議会に報告し、22日からパブリックコメントを実施したい。計画を整理して3月末までには表に出していきたい。第5回会議でパブリックコメントの結果を報告したい。

座長： 私からの案内だが、この施設の設計の課題を県立大学の学生に課している。お金や法律を考えないものだが、興味があればその発表会をぜひ見に来てほしい。

事務局： 本日はご関連なご意見をいただきありがとうございました。ご意見を参考に、事業計画や建物づくりをしていきたいのでご協力をお願いする。面積は必ずしもこの計画で固定するものではなく、運用についても意見を聞きながら複合施設としての機能が発揮できるように整理していきたい。使いやすい、来やすい施設を造っていきたいと考えている。

本日のご意見の補足があれば、来週水曜日（1/13）までに事務局まで。